

## 謝辞

お茶の水女子大学教授の鷹野光行先生には、博物館諸施設の中でも、生きている動物を展示するという特殊な博物館である「動物展示」について、問題意識を常に広げていただき、博物館研究として研究論文を仕上げている際の、筆者の立場をより鮮明にすることができた。

また、お茶の水女子大学教授の無藤隆先生には、実験や観察のデータの取り方とまとめかたについて貴重なご助言をいただき、同大学教授の三輪建二先生には、基本的な論文の性格に関するご助言をいただいた。

さらに、同大学教授の内田伸子先生、同じく教授の柴坂寿子先生には、細部に渡り目を通していただき、全体としての論文のまとめ方や細かな表現上のご助言をいただき、常に励ましていただいた。

なお、筆者の母校である東京農工大学教授の尾関周二先生には、コミュニケーション論について様々な観点からご助言をいただいた。博物館研究におけるコミュニケーションの問題については、国立科学博物館の守井典子氏・(株)トータルメディアの重盛恭一氏・千葉県立中央博物館の林浩二氏から数多くの情報提供をいただいた。

ここに厚く御礼申しあげる。

なお、本論の各種調査においては、以下の諸機関・諸個人のご協力をいただいた。機関名を記して、御礼とさせていただきます。

- ・東京都恩賜上野動物園普及指導係のみなさん
- ・東京都動物園協会ボランティア（略称 TZV）のみなさん
- ・東京都多摩動物公園管理課のみなさん
- ・東京都多摩動物公園飼育課の吉原耕一郎氏はじめ飼育課職員のみなさん
- ・東京都多摩動物公園動物解説員のみなさん
- ・千葉市動物公園飼育課類人猿担当のみなさん
- ・千葉市あやめ台幼稚園園長の神野茂美氏はじめ園の職員のみなさんおよび園児のみなさん
- ・東京都江東区立数矢小学校吉原先生他 3 年生の担任の先生および生徒のみなさん
- ・千葉経済大学附属高等学校の岩田好宏先生・高橋かおる先生（現・千葉県山武農業高校）および生徒のみなさん

また、折に触れ、筆者との議論をしていただいた、東京農工大学元助教授の水原洋城先生・千葉大学教授の稲垣佳世子先生・野生生物保全論研究会代表の小原秀雄先生・美術教育家の澤井泰子先生・東京都多摩動物公園元解説員の松本朱実氏・お茶の水女子大大学院の柘植千夏氏・市民 zoo ネットワークの大橋民恵氏はじめ各メンバーのみなさん、千葉市学童保育指導員の杵渕美香氏・元千葉市動物公園非常勤職員の高橋依子氏にはとくに御礼

を述べる。「動物園環境教育会議」および「子ども博物館研究会」のメンバーにもお世話

になった。今は亡き、日本モンキーセンターの広瀬鎮先生と京都市動物園の小島一介氏とは、動物園の未来について熱く語り合い、それが本研究の動機に強く結びついている。このように、研究が形になったことをご報告したい。

さらに、筆者の日頃の問題意識を常に交換していただいた、千葉市動物公園飼育課の職員・子ども動物園の非常勤職員の方々、そして勤務しながらの大学院進学を快くご許可いただいた、千葉市動物公園園長および飼育課長に厚く御礼申しあげる。これらの組織的バックアップのおかげで、研究にとりくむことができた。

夫は、3年あまりの研究生生活を常に支えて励ましてくれた。子ども達はしばしば予備調査に協力してくれた上、辛抱強く本論文の仕上がりを待ってくれた。心から感謝したい。

そして、筆者の、動物園における諸活動に関わったすべての人々、インタビューなどにご協力いただいた来園者の方がたにも感謝申しあげる。